

①業務目的

業務対象地域「白い道」は、宗谷丘陵内に位置し、約3kmに渡ってホタテの貝殻を敷き詰めた市道を中心としつつ、周辺の国道238号線及び道道889号(上猿払清浜線)も関連道路として調査区間に含め、それらの市道・国道・道沿線地域を調査対象地域とする。

②業務概要

- (1) 計画準備
- (2) 現地調査(「白い道」の課題抽出調査)
- (3) 交通量調査及び観光客等を対象としたアンケート調査
- (4) 調査結果の集計・分析
- (5) 「白い道」が将来的に目指すべき方向性の提案
- (6) 事業実施報告書の作成

③調査結果(抜粋)

分類	結果(抜粋)
交通量調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車・二輪車の交通量は13日(金)が752台、14日(土)が712台となっている。約4割が二輪車であった。 ● 徒歩・自転車の交通量は13日(金)が28台、14日(土)が31台であった。 ● 両日ともに宗谷岬から宗谷公園に向かう車両が多かった。
「白い道」来訪者アンケート調査及び据置式アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 「白い道」来訪者アンケート調査は153票を回収し、据置式アンケート調査で29票を回収した。 ● 今回はじめて来訪した回答者が全体の約7割を占めた。 ● 「白い道」に来た目的は、景観を楽しむことが最大の回答であった。写真撮影(SNS)やドライブとの回答も多かった。 ● 協力金に対し、約8割の回答者が賛成であった。協力金の金額は、100～300円未満が最大の回答であった。 ● 協力金賛成理由では、環境を保全していくために協力金が必要、「白い道」の魅力の対価として支払ってもいいとの回答が多かった。一方、反対理由では、協力金ではなく、税金等、他の方法で対応すべきとの回答が多かった。
ウェブアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京や大阪、神奈川の大都市圏の20歳台から60歳台、551票の回収した。 ● 協力金に対し、約7割の回答者が賛成であった。 ● 協力金の金額は、100～300円未満が最大の回答であった。300円以上の協力金支払いについても、全体の2割程度の回答を得た。

④「白い道」が将来的に目指すべき方向性の提案

分類	今後の方向性提案
①観光客の誘導方法の提案	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状の案内を基本とし、カーナビによる誘導案内方法を調査した上で案内が不足する箇所に置いて、路面標示など景観を阻害しない誘導案内の検討・設置を行う。
②設置すべき施設の提案	<ul style="list-style-type: none"> ● 風車の建て替えに関係する道路・駐車場整備を踏まえ、白い道入り口での駐車整備等、今後の白い道の活用を考えた整備を引き続き検討する。
③観光案内方法等の利用促進の提案	<ul style="list-style-type: none"> ● ホームページやSNSを活用し、白い道を十分楽しめる周遊方法として、宗谷岬からの順路をしっかりと案内、周知する。 ● 静けさを体感するための、おすすめの来訪手段(歩きや自転車)を発信する。
④車両の乗り入れ制限や一方通行化の方向性の提案	<ul style="list-style-type: none"> ● 規制ではなく、おすすめの順路として提示するなど、ポジティブな情報発信で行動変容を促す。 ● 警察との協議をすすめ、速度制限を含めた安全対策について引き続き協議を進める。 ● 将来的には、徒歩等の無動力専用を目指しつつ、まずは自動車や二輪車、歩行者、自転車が共存できる環境の検討を進める。
⑤通行有料化及び手法に関する提案	<ul style="list-style-type: none"> ● ホタテ貝を観光客に散布してもらおう等、利用者が白い道の維持管理の一部を負担する仕組みを導入する。 ● レンタルe-bikeや体験型商品等の開発を行い商品に協力金を上乗せする方法の検討を行う。 ● 将来に渡って白い道を持続的に維持管理していくため手段・方法については、試行的な取り組みを進めながら検討していく。
⑥観光資源としての磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"> ● 宗谷岬全体で滞在時間を延長させるために、新たな観光資源開発(白い道新コースやフットバス周遊コースの設置等)を行う。 ● シーニックバイウェイ「秀逸な道」との連携をすすめる。 ● 自然エネルギー、環境保全をストーリーとして感じられるサービス(EVバスの運行等)を検討、導入し、付加価値を高める。
⑦その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 属性別の移動行動や滞在時間等、観光客の実態を詳細に把握できる調査を実施する。

⑤「白い道」の協力金・通行料に関する検討

今年度の交通量調査の結果及び稚内市が発表している令和3年観光客入込客数を踏まえ、令和3年の4月～9月までの白い道来訪者数を算出し、アンケート調査で得られた、支払い意志額を乗じて、収益を試算した。

協力金又は通行料から土日・祝日で得られる収益試算

令和3年度 白い道の土日・祝日の来訪台数(推計)	アンケートによる支払意思額で最も多かった回答		
	100円の場合	200円の場合	300円の場合
34,001台	3,400,100円	6,800,200円	10,200,300円